

◇ 中期計画骨子（2025年度～2030年度）

1. 「各施設の黒字化、法人の黒字化を毎年達成しよう」
福祉事業は人が存在する限り不変の事業である為、各施設（サービス）が安定的に黒字化することはイコール自らの生活を安定させることに繋がる
2. 人口減少社会の中、人材不足の将来を見据え介護機器（ＩＣＴ・ＡＩ等）の導入、機器を活用した業務への切替え、仕組みの確立
3. 法人設立２０年を迎え、これからの１０年を見据えた法人組織あり方の見直し

◇ 2025年度事業計画（目標）

I 黒字化の達成

『守勢から攻めに転ずる１年』

- ・ 不採算事業の廃止・譲渡等の検討
- ・ 確実な利用者、稼働率の確保
- ・ 補助金、助成金獲得に向けての仕組み構築

II 新規事業立ち上げ、取り組みの検討

- ・ 保育事業と障害事業の連携・融合
- ・ 高田エリアでの在宅サービス展開の検討
- ・ 第２の保育園運営の検討（公立園の民営化第２弾に備える）
- ・ 障害者就労支援サービス展開についての検討
- ・ 若竹みらい基金に続く、法人寄付制度の創設

III 働く人が納得し、働きがいを持てる体制の強化

- ・ 介護機器（ＩＣＴ等）の導入研究として法人プロジェクトの立ち上げ
- ・ 「１分残業制度」に向けての体制整備の検討
- ・ 安心安全な施設内環境（カメラなど）の整備
- ・ 外国人人材の積極的登用の検討（留学、特定技能）

IV 法人組織の見直し

- ・ 法人理念・指針の再定義・見直しの検討
- ・ 法人を担う次世代、若手職員の抜擢、養成
- ・ 法人組織形態の整理（施設長クラスの法人運営の関り強化
ＩＣＴ、採用、新卒リクルート、教育、外国人人材、専門職の横断的関り等のプロジェクト業務の立上げ）
- ・ 目的や理念を共有できる法人との連携の検討、情報収集